

## 村川久子先生のご退任にあたって

大宮 謙

社会情報学部 大学宗教主任

2008年4月、新設学部である社会情報学部の看板教授の一人として村川先生は着任されました。国際武道大学、会津大学を経てのご着任でした。この6年間、同じ学部の一員としてご一緒させていただきましたこと、たいへん光栄に思います。先生とは教授会での定位置も同じ列の比較的近くでありましたので、教授会での公的な発言を間近で拝聴すると共に、議事の合間のちょっとした雑談にも加えていただきました。

また、何と言っても先生は社会情報学部の中では貴重なクリスチャン教員でいらっしゃいました。そのため、宗教センター関係の行事や会議の席でもご一緒する機会が多くありました。先生は、学部に数名ずつ割り当てられる大学宗教委員を6年間連続してお引き受けくださいました。年に数回青山キャンパスで開催される大学宗教委員会には、毎回相模原キャンパスから駆け付けてくださいました。また、大学宗教委員の中から選ばれるウエスレー・ホール・ニュース（宗教センターより年3回発行）の編集委員として、あるいは大学宗教委員研修会の委員として尊いお働きをしてくださりました。改めて感謝いたします。

また、先生は相模原キャンパスで毎日1時限と2時限の間に行われている大学礼拝でも奨励者としてお話くださいました。先生の留学時代のご経験や、ご自身の信仰についてお話を伺うことは、普段クラスで直接指導を受けている学生たちにとって、実に貴重な機会でありました。

さらに今年度は先生が青山学院大学をご退任される年に当たりましたので、いささか無理を申しまして12月19日の18時半から行われた相模原キャンパスでの大学クリスマス礼拝において聖書朗読をご担当いただきました。直前まで授業がありましたのに、快くお引き受けくださいました。礼拝用のガウンを着ていただくために、チャペルの入り口で慌ただしく先生のコート、マフラー、バッグをお預かりするクローク係のような働きをさせていただきましたことも楽しい思い出の一つです。

残念ながら、英語教育のスペシャリストとしてのお働きについて直接触れる機会は、私にはありませんでした。それでも、学生たちの様子から、先生の熱血指導ぶりはひしひしと伝わって参りました。ご自身が米国留学の中で最初は言葉が通じずにご苦労なされた話など伺いますと、「英語を身に着けるにはともかく努力するしかない」という信念で先生が教育に携わって来られたことを思われます。先生は神のことを「天のお父様」と呼ぶことから伺われるように、たいへん素直な信仰をお持ちだと拝察しております。その先生の言葉として印象に残っていますのは、「天のお父様は努力しないで『お願いします』などと言っても助けてくれない。しっかり努力した上で『後は天のお父様お願いします』と言うべきだ」（不正確な伝聞で申し訳ありません）というものです。ご自身の経験に裏打ちされた強さをお持ちの先生らしい言葉だと私には思われます。

信念と経験と見識に溢れて、学部のみならず大学全体の英語教育をリードしてこられた先生のご退任は寂しい限りですが、さらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。先生のスピリットを受け継ぐ方が、多方面に現れますことを願いつつ、感謝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。